

第77回天皇杯全日本サッカー選手権大会 （第2回滋賀F A CUP） 8月24日(日)～9月7日(日) 未定	皇子山陸上競技場

平成9年度事業計画



第77回天皇杯全日本サッカー選手権大会 （第2回滋賀F A CUP） 8月24日(日)～9月7日(日) 未定	皇子山陸上競技場
第77回天皇杯全日本サッカー選手権大会 （第2回滋賀F A CUP） 8月24日(日)～9月7日(日) 未定	皇子山陸上競技場
第77回天皇杯全日本サッカー選手権大会 （第2回滋賀F A CUP） 8月24日(日)～9月7日(日) 未定	皇子山陸上競技場
第77回天皇杯全日本サッcker選手権大会 （第2回滋賀F A CUP） 8月24日(日)～9月7日(日) 未定	皇子山陸上競技場
第77回天皇杯全日本サッcker選手権大会 （第2回滋賀F A CUP） 8月24日(日)～9月7日(日) 未定	皇子山陸上競技場

国体に向けて セレクションを終えて 役立ち、実りあるものとなりました。内容は、ユースと一般とのゲームを中心に、個々の技量や特徴、運動量、与えられた各ポジションの戦術的理解度など、全般的な身体能力に加え、どれだけサッカーを知っているかということをも念頭におき選考を進めました。

今年は近畿地区からは、開催地の大坂を除いてもう一府県のみの出場ですので、8月16日・17日に奈良県で行われる近畿予選では熾烈な戦いが予想されます。残された時間は少ないものの、この記念すべき第1回大会に出場できるよう、是非とも勝ち残るため、合宿等、計画的に強化に取り組んで行きます。

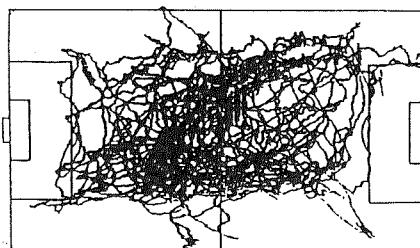
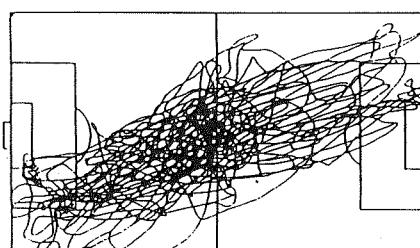
みなさんも是非、ご声援のほどよろしくお願いします。



国際審判員・一級審判員の活動を終えて 連載4

審判って結構走るんですよ！

滋賀県サッカー協会副理事長
Jリーグ審判委員会委員 森津陽太郎



左の図は、上が1971年の全日本VSスパーズ下が1991年のU-17イタリア大会での主審の動きを追ったものです。上は90分ゲームで10.45km、下が80分ゲームで11.3kmの走行距離だったそうです。

動く範囲や動く距離をみても、20年の間にすごく差があるのがわかるでしょう。審判法が少しずつ変化していっていることももちろんですが、サッカーのゲームそのものの質が変わってきて、それに対応して主審の動き方が変わってきたという方が正解でしょう。スピードが速くなってきたことはもちろん、非常にハイレベルの技術でコンパクトなサッカーが展開されています。それを判定するためには、当然よい位置で判定することが必要になってきます。そのためには主審の豊富な運動量と動きの質が要求されます。

最近の研究でトヨタカップのプレーヤーと主審の動きを研究したものがあります。みんなの記憶にもある雪のトヨタカップでは、プレーヤーの平均走行距離が約10,000mで主審の走行距離は12,000mだったそうです。雪の日であったので、プレーヤー、主審とも普段の試合と比べると少し少なかったようですが、主審はプレーヤーを上回っています。このことからも、結構主審は走っているんですね。

主審だけでなく、副審も結構動いています。副審は後から二人目のDFにつくのが通常です。試合の様相がコンパクトでスピードがあればあるほど副審の動きは激しくなります。後から二人目のDFについて動かなければならぬ副審は主審よりかえって動きそのものは大変かも知れません。

また、よい位置で判定することは単に判定が正しくできるだけでなく、選手を判定に対して納得させる説得力があります。少年団、女子の試合から社会人の試合まで、あらゆるゲームでよく動いていい判定をしてください。そのことが、サッカーの持つ魅力を引き出すことになるのではないでしょうか。